１．個人データ

職名： 教授　　氏名： 大多喜　重明　学位： 理学博士　　e-mail： ohtaki@kobe-kosen.ac.jp

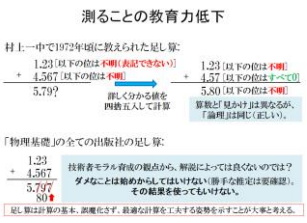
２．教育・研究テーマ

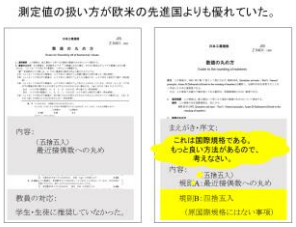
【日本のものづくりの復興】

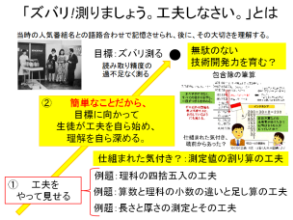
考えの基となるデータが誤っていると正しい答えは得られません。基幹産業の低迷と製造現場でのデータ改竄や新幹線の安全神話が崩れかけるのもその為と考えます。データの取得能力が下がると、それを基にした考察が不明瞭になり、定量的考察の練習が出来なくなります。練習不足が教育の場で起こり、定量的考察ではなくディベートに近いことが多くの研究・開発現場や製造現場で行われているため、基盤産業の崩れが起きていると考えます。

日本に高度成長が起きたのは官僚が優秀だっただけでなく、データ取得能力の高さとそれに伴う考察力の高さによるものと考えます。考察力が下がった要因は大学紛争と思います。大学紛争による実験実習の未履修卒業などの影響で、日本ならではの測定値の扱い方が次世代に伝わらず、データ取得能力が下がり、それに伴い考察力も下がり、産業停滞の人材的下地ができ、日本の高度成長を支えてきた世代から大学紛争世代への世代交代が起き始めたころから産業の停滞が始まり、電子産業などの凋落が起こったと考えます。

考察力が高いときはなぜその結果になったか分かった事柄も、データ取得能力の低下による考察力の低下によって、なぜその結果になったか分からなくなってしまいます。なぜその結果になったか分かっていれば、同様の事が次に起きたとき、「次も成功するよう」や「次は失敗しないよう」に準備が出来ますが、それが分からなければ、準備は出来ません。従って、データ取得能力の低下は長い間の経験に裏打ちされた判断力にも影響し、日本のものづくりがなかなか回復しない要因になっていると考えます。







最近の実験書と戦後間もない頃の実験書をじっくり比較することで、日本のものづくりの復興へのヒントが得られると考え、研究を進めています。高等教育教養課程の物理学実験や中等教育での理科実験を通して理系だけでなく文系の学生・生徒にも「ズバリ測る」ことを知ってもらうことで、ものづくりの復興ができ、「ズバリ！当てましょう。」のころの活気が戻ると考えています。

３．その他のデータ

（１）教育・研究技術相談可能分野

・物理教育
・格子欠陥
・
・

（２）出前講義・公開講座，講演可能テーマ

・理科実験
・
・

（３）キーワード

・ものづくりの復興、定量的考察力の育成、ズバリ測る、高等教育、中等教育